

登録コード	UAA24500	開講年度	2026			
授業題目	社会学実践演習				担当教員	前田 豊
					副担当	渡邊 綾
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・4 時限	
			授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学					
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				代表的な回帰モデルを深く理解することで、自身の問題関心や対象の特性に合わせた適切な分析実践を行うスキルを身につける。	
	【人間文化学】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				社会科学一般で横断的に用いられている統計の手法の数理的構造、および射程範囲について理解する。	
(2)授業の概要	基本的な記述・推測統計の数理的理解・実践方法を学習していることを前提とし、各受講生が専門分野にて求められる種々の回帰モデルを本授業では扱う。各回帰モデルの特性、および射程範囲に関する数理的な理解を涵養し、統計ソフトRを用いた実践方法を演習形式で身につけ、問題関心／社会現象に即した適切な統計的手法の選択・実践が行える能力の習得を目指す。					
(3)授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：Rの基本的操作：tidyverseパッケージを用いたデータハンドリング1 第3回：Rの基本的操作：tidyverseパッケージを用いたデータハンドリング2 第4回：Rを用いた記述統計の実践 第5回：Rを用いた推測統計の実践 第6回：線形回帰モデル：基本的なモデル構造と仮定，推定方法 第7回：線形回帰モデル：複雑なモデルへの拡張 第8回：線形回帰モデル：仮定の違反に対する対応 第9回：Rを用いた線形回帰モデル分析の実践 第10回：離散選択モデル：二項ロジスティック回帰モデル 第11回：離散選択モデル：多項・順序ロジスティック回帰モデル 第12回：対数線形モデル：ネスト構造に対応するモデルのヴァリエーション 第13回：対数線形モデル：デザインマトリックスを用いたアプローチ 第14回：Rを用いた離散選択・対数線形モデル分析の実践 第15回：まとめ 定期試験なし					
(4)成績評価の方法	各回帰モデルのセクションごとに設ける小課題（40％），および最終課題のレポート（60％）より総合的に成績を評価する。					
(5)成績評価の基準	1)各種回帰モデルの理解, 2)実践するスキル, の2つから評価する。それぞれに十分な能力の涵養が認められれば「卓越している」と評価し、いずれかに卓越さが認められる場合には「かなり上にある」, いずれかに秀でる点がある場合は「やや上にある」, 総合的に妥当性が認められる場合は「その水準にある」と評価する。					
(6)事前事後学習の内容	基本的な記述・推測統計に関する数理的な理解を前提に授業を進めるため、各回の授業に際しては、これらの十分な事前の復習を強く求める。また、本授業ではRを用いた実践方法も授業に組み入れているため、基礎的操作に関する主体的な学習も強く求める。					
(7)履修上の注意						
(8)質問,相談への対応	オフィスアワー、および（事前のアポイントを取ったうえで）授業時間外に質問・相談に対応する。オフィスアワーは初回授業時に伝える。メールアドレスはymaeda076[at]shinshu-u.ac.jp					
【教科書】	指定しない。					
【参考書】	西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮．2019．『計量経済学』有斐閣． Powers, D. A., and Xie, P. 2008. Statistical Methods for Categorical Data Analysis. Emerald Group Pub Ltd.					